

令和7年1月19日 ハイキング部活動

歴史ある名山「大山」

古くから庶民の山岳信仰の対象であった神奈川県大山に足を運び、東京湾、相模湾を一望できる頂上からの絶景を味わいました。

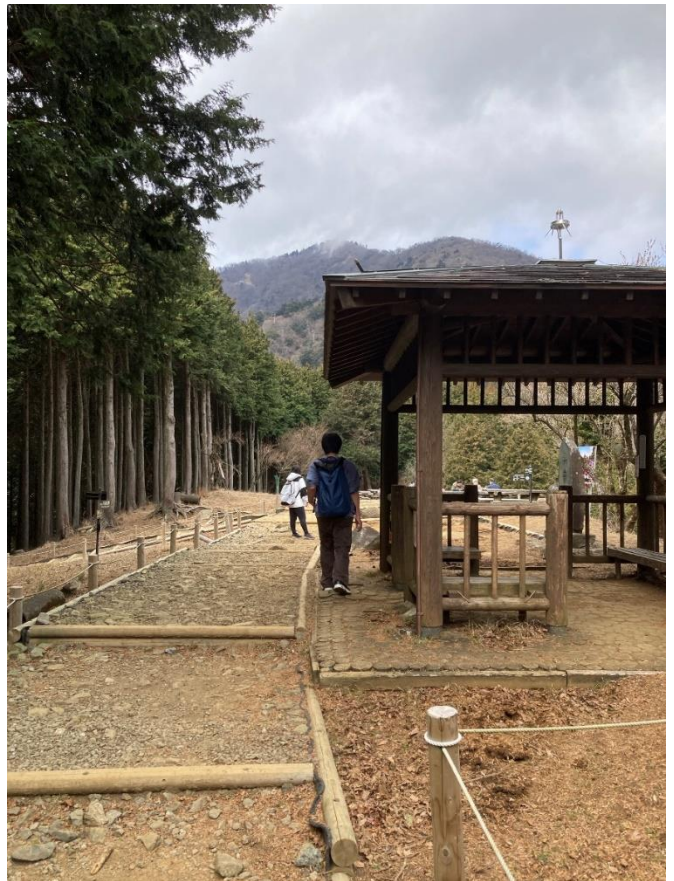
今回のハイキングコース

小田急伊勢原駅→神奈川中央交通「日向薬師」バス乗車→日向薬師駅→登山口→大山山頂（昼食）→大山山頂→大山ケーブル→神奈川中央交通「大山ケーブル」→伊勢原駅→解散













大山山頂（1252m）



大山阿夫利神社

大山阿夫利神社は関東総鎮護の霊山として、2200 年以上前から人々の願いに寄り添い続けてきました。

現在も多くの人々が参拝に訪れ、伝統と文化が継承され続けています。

遡ること、2200 年以上前。崇神天皇の御代に創建されたと伝えられているのが、大山阿夫利神社（おおやまあふりじんじゃ）です。大山阿夫利神社が鎮座する大山は、山上によく雲や霧が生じたことから別名「あめふり山」とも呼ばれ、雨乞いや五穀豊穡祈願の霊地として篤い信仰を受けました。山岳信仰としての歴史も長く、祭祀に使われたとされる縄文土器も山頂から発掘されています。

武家政権下になると、武運長久の祈りの対象として、多くの武士たちの願いが寄せられるようになります。源頼朝公は平家打倒のために挙兵する際、当社に自らの太刀を納めたと伝えられています。後にこの事柄は民衆にも広く知られるようになり、人々は競って木刀を納めるようになりました。これが、今も続く「納め太刀」の起源に当たります。源氏のみならず、足利氏・北条氏・徳川氏など、代々の将軍は当社を信仰したと伝えられています。

江戸時代前後にかけて、阿夫利神社は石尊大権現の名と共に庶民からも篤い崇敬を受け、年間 20 万人もの参拝者が「大山詣り」を行ったと記録されています。その絶大な人気から山内は賑わい、大山への参詣道は大山街道として整備され、周辺の町の発展にも寄与したとも伝えられています。この「大山詣り」は、古典落語の中で語られた他、数々の浮世絵や伝統芸能の中に息衝いています。

明治時代になると神仏分離令を機に巻き起こった廃仏毀釈の大波に、強い勢力を保持していた大山寺も一呑みにされました。この時期に「石尊大権現・大山寺」の名称は使われなくなり、旧来の「阿夫利神社」に再び改称されました。その後、大山寺はかつての女坂途中に場所を移して再建され、現在に至ります。

古来より、時を超えてあらゆる人々の願いに寄り添い続けてきた大山阿夫利神社。現在も多くの人々が参拝に訪れており、大山は賑わいを見せています。さらに、300 年以上の伝統を誇る「大山能」や明治時代から続く神楽舞「倭舞」「巫女舞」など、数々の文化が今に継承されています。

引用・大山阿夫利神社 <https://www.afuri.or.jp/>



